

出席者 町教委(教)：高橋 篤(教育長) 鈴木茂夫(教育部長) 鈴木和芳(学校教育課長)
 中村浩二(指導主事) 八谷 陽平(指導主事) 大崎沙久実(学校教育係長)
 知教労(組)：佐田京美 岡田 康 中沢晶子

1 正確な在校時間の把握をしてください。

組：休憩時間が取れない状況が多々ある現実を共通認識とし、正確な在校時間の把握をしてほしい。

委：現在は「スズキ」という校務支援ソフトを使っている。ソフトを「立ち上げ・切る」で記録される。休憩時間は、後の集計で教委の方で休憩を省いている。各個人が自分の記録を見ることができない・休憩が修正できないなどの不備が多いので、来年度はソフトを変更する予定である。

2 残業上限月45時間、年360時間を遵守するための具体的な対策を出してください。

組：小学校の部活動を廃止してほしい。廃止の検討をしていないのは南知多町だけである。

委：子どもたちがやりがいをもっていることや、大会があることから廃止は難しい。スポーツの受け皿を整えてから、将来的に検討するが、今、完全になくすというのは難しい。

組：中学校の朝部活を廃止してほしい。

委：昨年度から、コロナの関係で朝部活はほとんどなくなっている。先生に負担がかからないようにという指示は出しているが、一斉にゼロにするとはいっていない。令和5年度には中学校の統合により、登校に時間がかかることから、朝部は廃止する予定。

組：県のガイドラインでは朝部はなしということだ。統合を待たずして朝部を廃止すべきでは。

委：検討はしていきたい。

組：要望があるからやるのではなく、県のガイドラインに沿って、朝部なしを検討してほしい。

組：中学校の最長下校時刻を17:30にしてほしい。

委：日没を参考にして学校で決めている。教委からは提案していない。帰りの部活も遅い期間はあるが、全ての学校でそうしているわけではない。部活は、やるならば複数顧問で運営方法を工夫するよう指導している。

組：子どもたちが在校している時間が長ければ、教師の在校も長くなるのは当然だ。朝と帰りどで何とか短くなるよう組合は提案しているのだが、それらが取り組めていないとなれば、在校時間を減らすためにどんなことに取り組んでいるのか。武豊町などでは、教育委員会が働き方改革についての文書を出している。

委：教委として取組は十分ではないが、校長会には月45時間以内に抑えるように話している。働き方改革の対策は必要であるので、各学校でどのようにしたら45時間以内に抑えることができるのか、教員の意見を聞いて考え、それを基に何かを進めるようにしている。部活は土日のどちらかで、平日は1日休みにしている。

組：ある学校では、職員の半数近くが80時間以上というのは何が原因か。

委：様々な原因があると思うが、一つは授業改善。授業の準備の時間に相当時間をかけている。長時間の教師には改善を働きかけている。

組：教員の異動で、ある地域では朝部なし、ある地域ではある、最長下校時刻の違いなどという条件の違いは希望を出す場合の判断要素になり得る。足並みをそろえてもよいのでは。

委：超過時間を減らしたいとは重々思っている。小さなことでも各校からアイデアを出していただき、減らせることを積み重ねてやっていく。各学校で工夫をしてほしいと思っている。

組：教職員会等、任意団体に対する主張や仕事を勤務時間内に行なわないでほしい。任意団体なのに出張に県費を使うのはおかしい。

委：児童生徒の教育活動に意義のあるものと校長が判断して出張させているものと考えている。

組：本来の授業に補欠を充ててまで、任意団体の出張をするべきなのか。

誰かがほかの任意団体の仕事で、教育的価値のある出張をさせてくれと言ったら、県費が出るのか。

委：その内容が、児童生徒にどう生かされているかによる。

組：その基準があるわけではない。

南知多町は、小さい学校が多いので、出張が重なることも多い。一人出張に出ても後の人が大変になる。教職員会への働きかけといったところにもメスを入れていかないと45時間問題は解決しない。

委：全体的に見直す時期とは考えている。検討していく。目の前の子どもたちが大切であることは当然である。しかし、先生方が力量をつけるための出張も大切である。今後、オンラインを活用する方法もある。

組：教頭・教務・校務の授業時間を増やすことについてはいかが。

委：小規模なので、校務も担任をしている。教頭・教務・校務もそれなりに授業をもっている。

何かあったときにも対応している。

組：読書感想文を一律の宿題にしないでほしい。審査員も教員から出さないでほしい。

委：感想文以外の作品応募は希望者になりつつある。読書感想文は、一律に宿題にしている学校が多かった。審査は学校から離していくべきものとする。審査について図書館とは関わっていない。

組：図書館と関わっていないのならば、審査を応募先に戻すのはやり易いのでお願いしたい。

委：検討する。

組：中学校が統合すると、規模が大きくなるが、多忙化解消の手立ての見通しはあるか。

委：保護者の要望や不安は大きいので、ソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、支援員など人的フォローができるところはできるだけ手厚くして対応していきたい。早退する生徒への学校を離れての付き添いには教員でない方をお願いするなど検討をしていきたい。

3 校務・教務の異動について特別扱いをしないでください。

組：異動者カードについては教務・校務は書かないことになっていて、他の教諭と扱いが違う。退職するときのカードの扱いも違う。教務・校務は異動希望も聞かれない。また、校務・教務を先に決めることなく、他の主任・主事と同様に校内人事で決めてほしい。4月1日に辞令をもらっており、それは4月以前に人事が決まっている証。条例では人事について、校長・教頭・教諭の区別しかない。教諭の中でいろいろな決め方があるのは条例違反である。教頭になるには教務・校務の経験が必要だが、どのように教務・校務になるのかという基準もないまま決まっているので、情実人事の疑いが生じる。他の教諭と同様の扱いをするように知教協に進言してほしい。

委：知教協で話題にするように伝える。

4 各校にICT支援員・GIGAスクールサポーターを常駐させてください。

組：タブレットは児童生徒に配られたが、何かあったときにすぐに対応できるよう支援員が校内に常駐することは現場は必要としている。

委：常駐ではないが5名体制で、随時連絡すればすぐ来てくれるようにしている。授業でどう使ったらよいかも助言してくれる。教員へもHP作成などの助言もしてくれるので助かる。

組：統合したら、常駐できるか。

委：できるものなら常駐させたいという思いはあるが予算の関係もある。

5 再任用ハーフ2人による2人学級担任

はさせないでください。

委：南知多町ではこの事例はない。できるだけやらせたくない。

6 学校訪問の縮小をしてください。

組：指導案のA4サイズ1枚化、特設授業の廃止、通常の日程の中での訪問など、知教協で検討してほしい。

委：知教協に伝える。検討していきたい。学校訪問の中で、「いい機会」という声は先生の中にもある。学校訪問による多忙化は防いでいきたい。小さなアイデアを生かし、業務量を減らしていきたい。指導案は、その先生が計画性をもって授業に臨めるかということが重要で、量の問題ではない。しかし、ある程度の量は必要ではないかと思う。

組：他市町ではA4 1枚のところもある。全員が2枚書かなくてもよいのでは。

委：年々子どもは替わってきている。教育の在り方も変わってきているので、経験のあるなしでなく、工夫して授業計画をしてほしい。

組：働き方改革の点からも、全員一律でなくてもよい。特別な準備のかからない学校訪問にしてほしい。また、指導案を書くための時間は勤務時間内に保障するべきである。

組：学校訪問の要項は昨年と同じ物であり多忙化解消チェックをするという内容が抜けている。県教委は、学校訪問にチェックをするようにとしている。来年度の要項にはきちんと盛り込み、学校へ行ったらチェックし指導するように、知教協へ進言してほしい。

委：伝える。

7 すべての特別教室にもエアコンを設置してください。

委：統合が進めば、普通教室のエアコンが空くのでそれを移設して、特別教室につける予定である。

8 その他

組：統合の実施計画(案)が10月に出ているが、進展具合はいかがか。

委：(案)が取れて、現在、実施計画になり、それを基に進めている。令和5年に4中が一つになり将来的には篠島中も一緒になることをめざしている。登校にはスクールバスや船を使う。保護者もかなり不安な面があることから、今後はその不安を解消しながら進める。

以上